

## 1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]  
作成日平成 20年 3 月22 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4071900940		
法人名	有限会社 グループホーム 夏吉園		
事業所名	グループホーム 夏吉園		
所在地 (電話番号)	〒825-0004 福岡県田川市夏吉3614番地の1 (電 話)0947-45-3108		
評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	〒803-0944 北九州市小倉北区真鶴二丁目5-27		
訪問調査日	平成20年3月21日	評価確定日	平成20年4月8日

## 【情報提供票より】(20年2月20日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 6 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	22 人	常勤 9 人, 非常勤 13 人, 常勤換算 5.7	

## (2)建物概要

建物形態	併設/単独	(新築)/改築
建物構造	木造平屋	造り
	階建ての	階 ~ 階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有( 円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	930	円	

## (4)利用者の概要(2月20日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	2 名	要介護2	7 名		
要介護3	6 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低 78 歳	最高 96 歳		

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	上野病院 ・ やました歯科
---------	---------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

小高い山に包み込まれ、穏やかな田園風景の中にグループホーム夏吉園がある。近くには警察署、消防署など社会資源に恵まれ心強い環境である。玄関周りの花壇、園庭の野菜畑や木々が季節の移り変わりを演出してくれる。地域に生まれ育ったオーナーと、ホーム長、ケアマネージャーの、コンビネーションで地域にしっかりと根ざし、多くの人々のボランティア活動の参加や、ホーム行事への地域の方の参加などで地域との交流が図られている。ホーム長の見守り、愛情、厳しさ等の思いを職員が共有し、ホームが一丸となって、入居者が安心して暮らせるホームを目指している。又開設時から定期的に接遇についての研修が行われ、職員が礼儀正しく、介護サービスに対する質の高さが伺われる。4月から在宅診療と契約し、24時間の訪問診療が出来るようになり、終末期の体制が確立され、利用者や家族からの信頼も厚いグループホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善点は、市町村との関わり。地域との共同災害訓練の2件である。に関しては、市町村に働きかけているが、今後とも積極的な協力関係が出来る様に工夫されることが望まれる。に関しては、地域に根を下ろしたホームであり地域の理解と協力が得られている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者や職員は外部評価の意義を理解し、職員全員がそれぞれの立場で意見を出し合い、管理者と合同で作成している。今後は職員一人ひとりが分担して、自己評価を作成していくことが望まれる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、2ヶ月に1回行われ、区長、公民館長、家族会代表、園長、施設長、職員等が参加し近況報告や行事等について意見交換をしている。会議がマンネリ化しないように、会議の中味を年間計画を立てて充実した内容の会議にすることを期待する。また会議に市や地域包括支援センター職員が参加できるように努力することが望まれる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	「ご意見箱」の設置などで、家族が意見や要望は言いやすい環境は出来ているが、第三者の介護相談員制度の導入などを市町村に働きかけが望まれる
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の方や家族、ボランティアの方々の訪問が多く、ホームの玄関の花の手入れ、ホームの行事である、夏祭、クリスマス会など、地域の青年団、子ども会、老人会など、多いときは150名の参加があり、しっかりと地域との連携ができています。ホームの方も地域の方の介護に関する相談に乗ったり、氏神様や、バスの停留所の清掃、地域の行事である敬老会など積極的に参加している。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域に密着したグループホームとして、独自の理念のもと日々実践されている。また、理念を具体化させるため、施設長及び職員一同が、「思いやり」、「愛情」、自ら「厳しく」をモットーとして運営にあたっている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員による朝のミーティング時に、理念の唱和を行い理念の意味するところを理解し実践に結びつけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	入居時や各行事などを通じ利用者・家族に理解を求め、説明を行っている。地域の方の来訪やボランティアの方々にもホームの方針や考え方など理解してもらえよう工夫している。園長は地域に60年住み、地域での交流も活発におこなわれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	施設長、管理者、ケアマネージャー、職員全員がそれぞれの立場で意見を出し合い、取り入れ、評価を活かした取り組みを行っている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月毎に開催され、各行事などの参考意見や運営上の問題点及び今後の課題など幅広く意見交換が行われている。会議の内容についても議事録をもとに「園だより」等に報告がなされている。		ホームから地域包括支援センターに、運営推進会議への出席要請が行われた経緯はあるが、実現をしていない。運営推進会議の目的を説明し、理解してもらい、会議に協力し参加してもらうことが望まれる。
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護保険課の担当者とは、相談や情報提供などで十分な連携がとれている。		市と協働で、公民館などを利用した家庭介護相談事業や市の研修の場として、ホームを提供するなど連携を深めることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	権利擁護に関する制度の理解活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業に関する制度などの研修会には、職員を交代で参加させるなど積極的に取り組んでいる。また、家族には制度について、いつでも説明が出来る体制である。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族との連絡や情報などは「園だより」を郵送し、定期受診や利用料金の支払い時に、日々の暮らしなど伝えている。または、電話で常に連絡を取り合っている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置等で、利用者・家族が気軽に意見や要望が言える雰囲気である。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は原則的にしない方針である。現状、職員の異動及び退職による職員の交代もしばらく行われていない。また、やむなく職員交代などへの対応は、2ユニットの利点を活かしてローテーションなどで利用者へのダメージを防ぐようにしている。		
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は職員の募集採用にあたっては性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し社会参加や自己実現の権利が十分に保障	職員の採用は、性別、年齢制限を設けていない。職員は利用者と共に暮らし、職員の能力を十分に発揮できる体制が構築されている。職員は生き生きと職務に就いている。		
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員などに対する人権を尊重するために、職員などに対する人権教育、啓発活動にとりくんでいる	市、県主催の人権教育研修会に参加している。また、研修参加については、ホーム側から研修に参加しやすいように、バックアップがなされている。		
5. 人材の育成と支援					
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の習熟度に応じた指導がなされている。特に接遇に関する教育研修を重視し、開設以来現在まで、外部の「接遇講師」による研修がホームにおいて、毎月2回(全体・個別)行われている。また、外部での研修にも積極的に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協議会の勉強会などに参加しサービスの質の向上に役立てている。また近隣のグループホーム職員との交流も行っており、情報交換、相互訪問などネットワークづくりも行っている。		
<b>・安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者は、口コミや評判を聞いて来園するケースが多い。入所にあたっては前もって家族とともに行事に参加し安心感を持って入居している。昨年より始めたデイサービスに招待するなど、馴染んでからのサービス利用が効果的で、利用者・ご家族の評判も良い。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者や職員は、「家族」といった雰囲気に対応し、心配したりされたり、時には励ましたりと関係が密である。また、家事に関しても、利用者から教わることも多い。		
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、常に利用者の立場に立ち、一人ひとりの思いや希望を話し合い、本人の意思を尊重するようにつとめている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成は、利用者・家族、職員全員の要望や意見などを反映し、家族とともに利用者本位の介護計画を作成している。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヵ月毎の見直しを行っているが、利用者の状態に変化が生じた時は、その都度家族と相談しながら見直しを図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況を把握し、希望に応じたサービスの提供を行っている。昨年近隣にデイサービスを開設し、利用者が遊びに行ったり、来たりと、多機能性が増し利用者や家族に好評である。		
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の希望するかかりつけ医に受診し、結果はその都度家族に報告されている。本年4月より「在宅支援診療」を利用することで、受診に伴う負担の軽減が図られている。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今までは重度化や終末期ケアの対応はないが、常日頃からカンファレンスなど、相互の意思確認などを行い対応している。今後は、在宅支援診療を視野にいれ「ホームでの看取り」などの検討が始められている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシーを尊重し、守秘義務の徹底は図られて、退職者にも徹底している。排泄チェック表は、トイレの裏側に貼るなど、さりげない配慮がされている。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	アセスメントやバイタルチェックなど、利用者・家族からの情報を基に、利用者の希望に添った支援が行われている。日常は、本人の体調等を大切に、自由に穏やかな生活が出来るよう支援をしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好調査や時には外食などを試みている。利用者と一緒に、食事準備・配膳・下膳・洗い物などの自立支援が行われている。また、食事を楽しむことに関しては、ホーム独自の「こだわり」で、品数も多く、美味しく「手作り」に徹していることである。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	活生水素水使用による24時間対応型風呂で利用者が希望する時間帯に、いつでも入浴ができる体制が整っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの身体機能に合わせて、時には役割を分担し、生活にメリハリをつけるよう配慮している。カラオケ、ゲームなど本人の意向に沿って、無理しないよう楽しみながら支援している。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、気分転換を図るため戸外に出かけることが多い。また、高齢で遠出や戸外での散歩ができないばあいでも、中庭でのティータイムやデイサービスに行ったりと、各自の希望に添った支援を行っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠は、夜間勤務者の時間帯のみで、門扉は常時開放である。、利用者の行動パターンを把握し、職員の気配りで支援している。入口の事業所の従業員に頼んだりするなど、現実的な対応をとっている。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間を想定した避難訓練を実施している。また、通報訓練も実施している。		非常時に備えて、食料や飲料水、毛布などの備蓄の準備が望まれる。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士でもある施設長が食事の献立表を作成し、利用者各々に合わせて調理されている。栄養バランス、食べ易さなどにも充分配慮されている。水分補給では、特に夜間の水分補給に配慮されている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂や居間は、テーブルや炬燵などが置かれ、どちらでも選べるようになっている。中庭にはおしゃれなカフェテラスがあり、天気の良い日は、日向ぼっこやミニコンサートなどが行われ、居心地よく過ごせるよう随所に工夫がされている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全室畳敷きの居室には、使い慣れた家具を持ち込み、写真などを飾り、思い思いの工夫がされ、家族の方とのくつろぎの場にもなっている。居室で家族と一緒に宿泊もできるようになっている。また、夫婦単位で利用できる居室も用意され、多様なニーズに対応している。		